

アロー アンプ

取扱説明書

型 式 ST-302P

株式会社デジタル

製品に関するお問い合わせは **デジタル お客様センター** まで

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.proface.co.jp/customer/contact.html>

⚠ 安全上のご注意

表示内容を見逃して誤った使い方をしたときに
生じる危害や損害を説明しています。

本機のご使用前に以下の「注意事項」をよくお読みいただき、理解し遵守してください。

⚠ 警告

取扱いを誤った場合、使用者が死亡又は重症を負うことが想定
される危害の程度をいう。

- 製品は取扱説明書に記載された範囲内でご使用ください。
感電、火災のおそれがあります。
- 結線するときは、必ず電源を切ってから行なってください。
感電するおそれがあります。
- 取扱説明書に記載された部品の交換、組み替え及び調整を行なうときは、必ず電源を切ってから行なってください。
感電するおそれがあります。
- 本機の分解や改造は行なわないでください。
感電するおそれがあります。

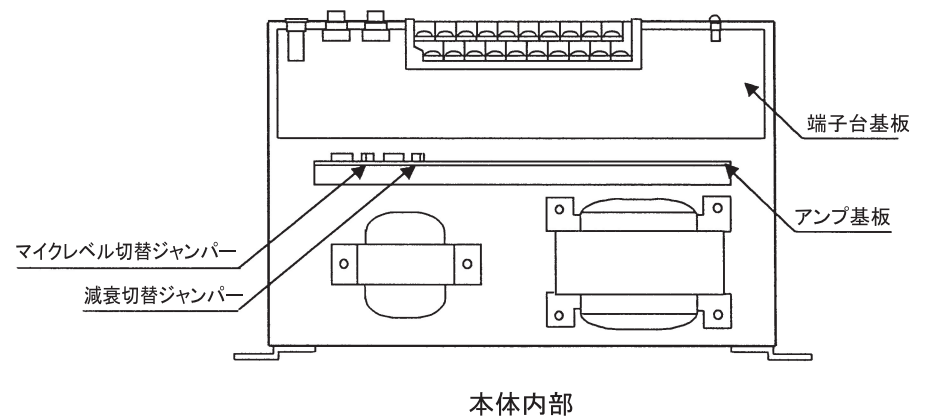
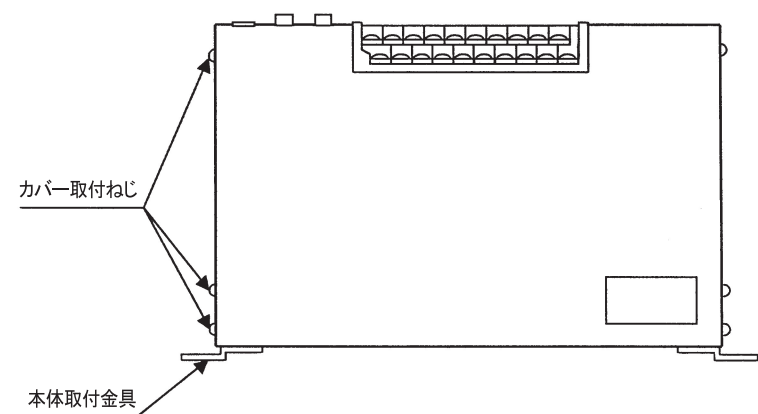
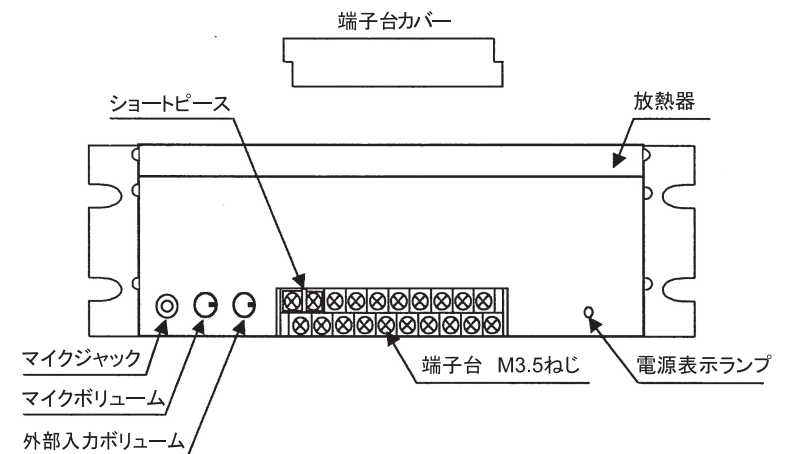
[おねがい]

- 電圧変動の激しい電源(変動率10%を超える電源)や、ノイズ、サージを多く含む電源(±1000V、1μsを超えるもの)でのご使用は避けてください。
- IC・LSIを使用しているため、電磁波の強い場所での使用は避けてください。
- 配線の余分な引き回しや他の電源線などとの併設は避けてください。
- ボリュームを強く押したり、無理に回さないでください。

目 次

安全上のご注意	P.1
1:各部の名称	P.2
2:取付方法	P.3
3:結線および設定方法	P.3~7
4:使用方法	P.7~8
5:ブロックダイヤグラム	P.8
6:製品仕様	P.9
7:外観図	P.10

1 各部の名称



2 取付方法

▽本機は壁面取付方式になっています。

注意



本機を雨、水のかかる場所に取付けないでください。

漏電や故障の原因となります。



本機を許容範囲外の高温、低温、多湿の場所や腐食性ガス、引火性ガスの発生する場所に取付けないでください。

漏電、火災、故障の原因となります。



本機背面の放熱器部分はかなり発熱しますので、他の物でふさいだりせず、すき間をあけてください。また、壁面に取付けるときは放熱器面が上向きになるように取付けてください。

火災や故障の原因となります。



本機の取付けは十分強度のある面にしっかりと取付けてください。

落下の原因となります。

3 結線および設定方法

●各端子の説明

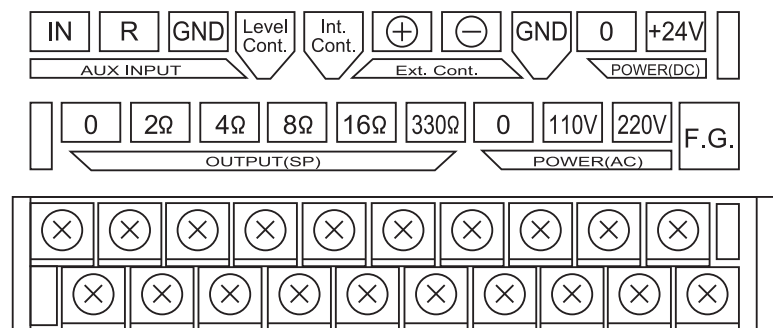


図1 端子台図

●AUX INPUT[IN、R、GND]（入力）

本機の音声入力端子です。R－GND間には内部に100Ωの抵抗器が接続されています。信号の入力端子はIN－GND間であり、その入力インピーダンスは10kΩですが、出荷時にIN－R間はショートピースにて短絡され、入力インピーダンスは100Ωとなっております。

●Level Cont.

この端子はAUX INPUTのレベル切替え入力端子です。通常はAUX INPUTのレベルは6.3V(約17dB)ですが、この端子とGND端子を短絡させると、AUX INPUTのレベルは1V(0dB)になります。

●Int. Cont.、GND（出力）

この端子は親機にExt. Cont. 端子がない場合の自己制御端子です。Int. Cont. 端子とExt. Cont. ⊕端子、及びGND端子とExt. Cont. ⊖端子をそれぞれ接続してください。

●Ext. Cont. [⊕、⊖]（入力）

本機の制御入力端子です。この端子に外部からDC24Vが印加されていると、アンプ回路はONとなります。従いまして、この端子に制御電圧が印加されないと、アンプは動作しません。親機(アローボイスSV-54B型など)のExt. Cont. 端子に⊕、⊖それぞれ接続してください。

●POWER(DC)[0、+24V]（電源入力）

本機をDC24Vの電源でご使用の場合は0、+24V端子間に電源を接続してください。このとき、+24V端子に電源のプラス側、0端子に電源のマイナス側を接続してください。

●OUTPUT(SP)[0、2Ω、4Ω、8Ω、16Ω、330Ω]（出力）

本機のスピーカ出力端子です。使用されるスピーカのインピーダンス及び本数に応じて端子を選択してください。スピーカを複数本並列で接続される場合、例えば2本並列接続しますと、総合インピーダンスはスピーカ1本当たりのインピーダンスの1／2になります。また、本機とスピーカとの配線距離が長い場合や接続するスピーカの本数が多い場合、スピーカはマッチングトランス付のもの(ハイインピーダンス)を使用し、0－330Ω端子(100V)へ接続してください。尚、2種類以上の端子に同時にスピーカを接続しないでください。過負荷となり、故障の原因となります。

●POWER(AC)[0、110V、220V]（電源入力）

本機をAC110Vの電源でご使用の場合は0－110V端子間、AC220Vの電源でご使用の場合は0－220V端子間に電源を接続してください。

●F. G.

この端子は本機の本体ケースに接続されています。安全のため、必ず大地アースをとってください。尚、本機の内部回路のマイナス側(DC24V電源のマイナス側と共通)は本体ケースとコンデンサを介して接続されており、その耐電圧は最大AC500V1分間となっております。

●電源、スピーカの接続

- 本機の電源はAC110V、AC220V、DC24Vのいずれでもご使用いただけます。ご使用になる電源電圧に合った電源端子に接続してください。尚、DC24Vの場合、極性がありますのでご注意ください。
- スピーカ出力はご使用されるスピーカのインピーダンスや本数により、適合するインピーダンスの端子に接続してください。

[スピーカの接続例]

本機の接続端子	スピーカ	本数	本機の接続端子	スピーカ	本数
0－2Ω間	4Ω	15W以上 2本	0－330Ω間	330Ω	30W以上 1本
	8Ω	8W以上 3～4本		500Ω	20W以上 1本
	16Ω	4W以上 5～8本		670Ω	15W以上 1～2本
0－4Ω間	4Ω	30W以上 1本		1kΩ	10W以上 1～3本
	8Ω	15W以上 2本		2kΩ	5W以上 1～6本
	16Ω	8W以上 3～4本		3.3kΩ	3W以上 1～10本
0－8Ω間	8Ω	30W以上 1本		5kΩ	2W以上 1～15本
	16Ω	15W以上 2本		10kΩ	1W以上 1～30本
0－16Ω間	16Ω	30W以上 1本			

●マイクレベルの切替え

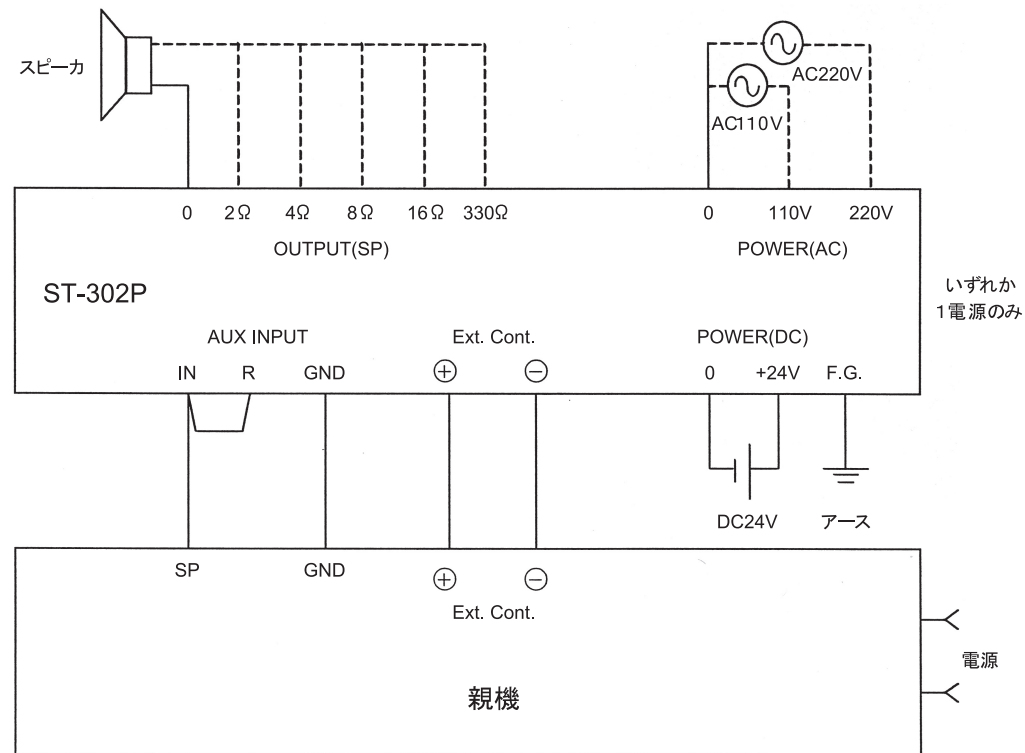
- 本機のマイクレベルは通常は－45dBですが、－60dBに変更できます。ご使用になるマイクの感度が低い場合などは切替えてください。本機内のアンプ基板上にあるマイクレベル切替ジャンパーを“HS”側に差替えますと、マイクレベルは－60dBになります。(**1 各部の名称** を参照)

●マイクの仕様

- 適合マイク: 別売品DM-330S(400～600Ωのダイナミックマイク)
マイクプラグ: φ6. 3－3極
回路: トークスイッチを押したとき、マイク信号がONし、かつトーク端子とCOMが短絡すること(トークスイッチが2回路のもの)

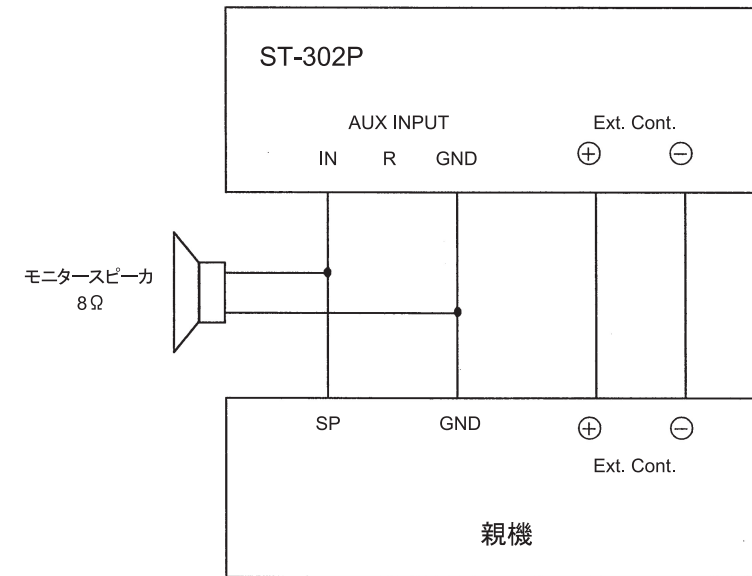
●結線例

- 親機との間にはAUX INPUT、Ext. Cont. の接続を行いません。また、電源を電源電圧に合った端子に、スピーカをインピーダンスに合った端子にそれぞれ接続します。尚、親機と本機との間の配線距離は極力短くしてください。



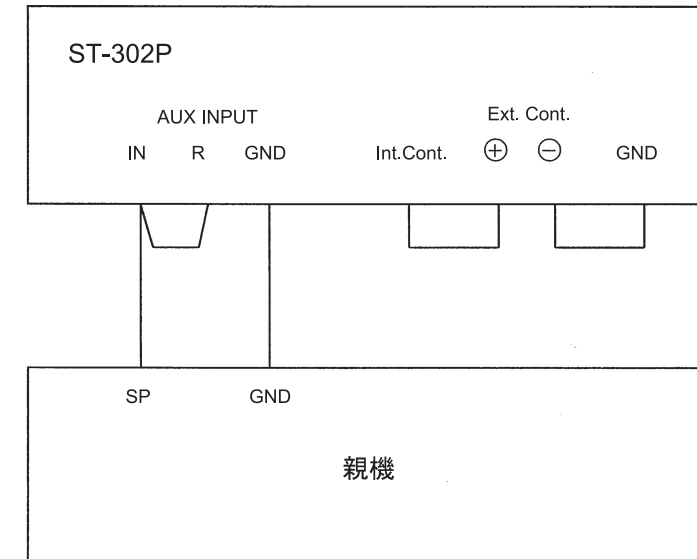
●親機にモニタースピーカを接続する場合

- 親機の出力に並列にモニタースピーカを接続する場合、本機のIN－R端子間のショートピースは取外してください。尚、親機と本機及びモニタースピーカの配線距離は極力短くしてください。



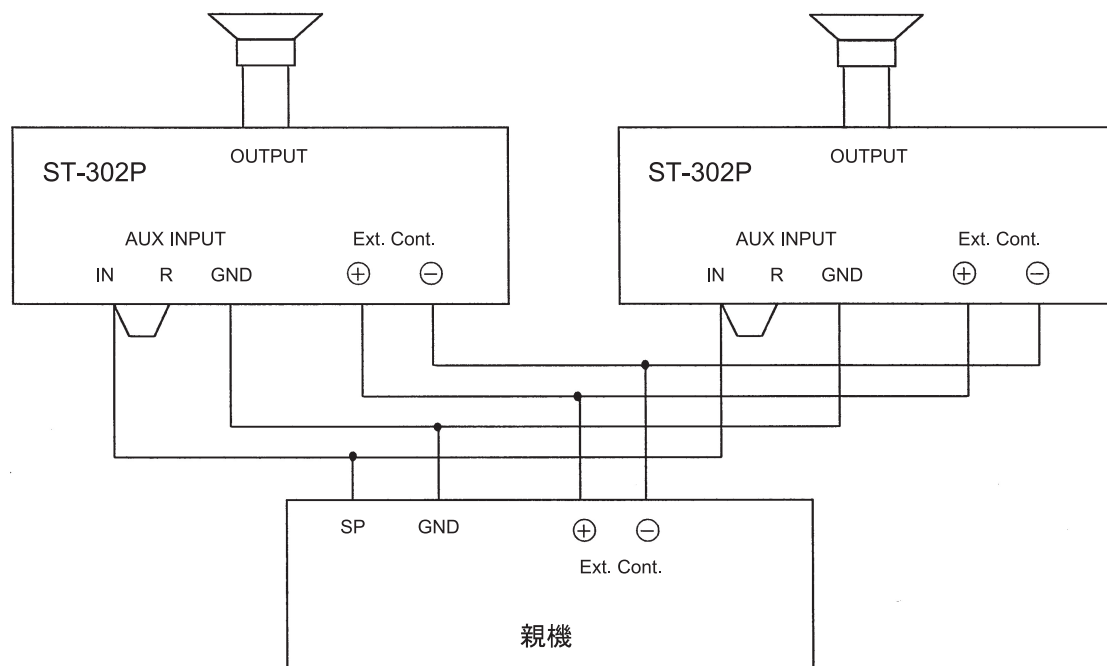
●親機にExt. Cont. 端子がない場合

- 親機にExt. Cont. 端子がない場合、本機のInt. Cont. 端子とExt. Cont. ⊕端子及びGND端子とExt. Cont. ⊖端子をそれぞれ接続してください。



●親機1台に本機2台を接続する場合

- 親機1台に本機2台を接続する場合、本機の出力はそれぞれ独立させてご使用ください。本機2台の出力同士を接続しますと、故障の原因となります。また、親機と本機との間の配線距離は極力短くしてください。尚、親機1台に接続する台数は5台以下としてください。



お願い

- スピーカ線を接続する時、スピーカの総合インピーダンスに合った出力端子に接続してください。故障や十分な性能を発揮できない原因となります。
- 本機とスピーカ間の配線距離が長い場合は、ハイインピーダンスタイプ（マッチングトランス付）のスピーカを使用し、本機のスピーカ出力端子の0-330Ω間に接続してください。十分な性能を発揮できない原因となります。
- 電源端子は、ご使用になる電源に合った端子を選択し、いずれか1電源のみ接続してください。また、その他の電源端子には何も接続しないでください。故障の原因となります。
- 電圧変動の激しい電源（変動率10%を超える電源）やノイズ、サージなどを多く含む電源（ノイズ電圧±1000V 1μsを超える電源）でのご使用は避けてください。誤動作や故障の原因となります。

4 使用方法

●動作

- 電源を投入しますと、前面にある電源表示ランプが点灯し、待機状態になります。
- 親機よりExt. Cont. 端子に入力（DC24V）されまると、内部のアンプは動作状態となりますので、親機よりAUX INPUTに入力された信号を増幅し、OUTPUT（SP）より出力します。
- 本機前面にあるボリュームは入力レベル用とマイク拡声用と独立していますので、適当な位置に調節してください。右廻しで音量は大きくなります。

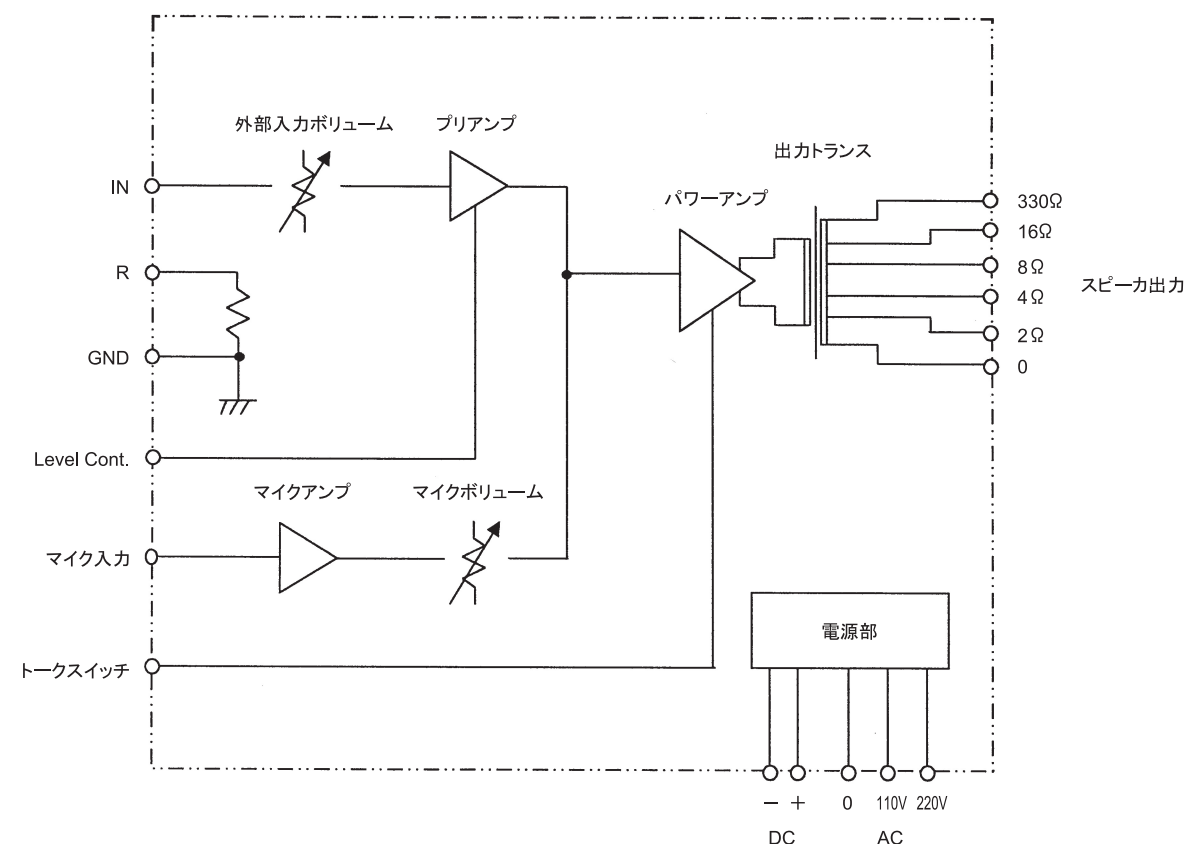
●マイクによる拡声

- マイクジャックにマイクのプラグを差込み、マイクのトークスイッチを押して話しますと増幅し、OUTPUT（SP）より出力されます。
- 入力レベル出力中にマイクを使用する場合、マイクのトークスイッチを押しますと、マイクによる拡声音が明瞭に聞こえるため、入力レベル出力を減衰（約-12dB）します。減衰が不要な場合には、アンプ基板上の減衰切替ジャンパーをOFF側に差替えてください。（**1 各部の名称**を参照）

お願い

- 電源を投入される前に今一度結線に間違いがないか、充分にご確認ください。
- スピーカ出力端子には絶対に外部から電圧を印加しないでください。故障の原因となります。
- 音声入力端子（AUX INPUT）には8Ω 5W（約6.3V）を超える電圧を印加しないでください。故障の原因となります。

5 ブロックダイアグラム



6

製品仕様

型 式	ST-302P		
定格電源電圧	AC110V	AC220V	DC24V
定格消費電力	65W	65W	50W
定格出力	最大30W		
出力インピーダンス	2Ω、4Ω、8Ω、16Ω、330Ω		
定格時間	連続		
入力レベル	6.3V 100Ω (5W8Ωに対応) (切替えにより1kΩ 0dB可)		
マイク入力	1回路600Ω -45dB 不平衡 φ6.3-3Pジャック (切替えにより-60dB可)		
	1:マイク信号+ 2:トークスイッチ 3:COM(マイク信号-とトークスイッチ)		
Ext.Cont.	DC24V		
絶縁抵抗	10MΩ以上(DC500Vメガ) 電源-筐体間	—————	
耐電圧	AC1500V1分間 電源-筐体間	—————	
内蔵ヒューズ	ガラス管ヒューズ φ5.2×20 250V2A	φ5.2×20 125V5A	
使用周囲温度	-20℃～50℃		
使用周囲湿度	35%～85%RH(結露なきこと)		
使用雰囲気	腐食性ガスなどなきこと		
構 造	屋内仕様(防塵構造) (IP50相当)		
製品質量	約5kg		

7

外観図

